



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、屋台が激しくぶつかり合う飯坂八幡神社例大祭・飯坂けんか祭りなどを中心に精力的に演奏活動を行い、10月には伊勢神宮に太鼓の演奏を奉納する飯坂八幡神社祭り太鼓保存会事務局長の武山英樹さんにインタビューしました。

太鼓を始めたきっかけは？

幼い頃から、具合が悪くてもけんか祭りに行きたがるほどの祭り好きでした。ぶつかり合う屋台の心臓部で叩く太鼓の格好良さに憧れ、先輩たちの技を盗みながら叩き始めました。

保存会の活動内容は？

飯坂小学校の祭り太鼓クラブの卒業生を母体に発足し今年で結成20年、会員37人で活動しています。元々観光キャンペーンやイベントでの演奏を目的に始まり、多くの依頼をいただいています。中には、毎週の演奏ももう何年も続けさせてもらっている旅館もあります。

後進の育成にも力を入れていきます。小学校の太鼓クラブの指導や、9月10月は中学校の学習発表会で発表するための指導も行いますね。

また、一口に飯坂の太鼓と言っても実はけんか祭りに参加する各町それぞれに叩き方が違うなど、横の連携が取りにくい事情がありました。そういう面では町をまたいで活動しているこの保存会は、各町をつなぐ存在にもなっていると思います。



飯坂八幡神社祭り太鼓保存会
事務局長 武山 英樹さん

活動を手伝ってくれる人も、最初は年配の方が多かったのが、今では各町の中心役員や若手までその輪が広がりました。これはすごくありがたいことで、20年続けてきて得た、大きな財産ですね。

大変だったこと、やりがいを感じることは？

色々大変なこともありますが、好きでやっているのが、嬉しいとは思いません。

自分が指導した子どもたちの成長を見ると、とてもやりがいを感じます。そしてそこからまた、けんか祭りに関わる子どもたちが増えていく。私たちはやっぱりけんか祭りが軸にあってそれを中心に一年が回っていますから、祭りが続いていく、受け継がれていくことが実感できるのはうれしいですね。

けんか祭りは、世代を

今後の活動は？

まずは10月6、8日（2ページ参照）の飯坂けんか祭りをけが無く成功させたいです。

そして10月28、29日には「神恩感謝 日本太鼓祭」で伊勢神宮（三重県）に太鼓の演奏を奉納します。4月からこのために練習を積んできました。

私の父である保存会会長の長年の夢であり、結成20年の節目に奉納できるのは光栄です。私たちも有名な団体との共演をとても楽しみにしています。多くの方のさまざまな思いを太鼓に乗せて、全力で奉納していきたいと思っています。

算額を 和算

皆さんは「和算」を知っていますか？昔、福島では和算が盛んでした。今回は市内に残る「算額」について紹介します。

日本では古くから神社や寺院に絵馬を奉納する習わしがあります。その絵馬の一種であり、和算家が数学の問題や解答を額に掲げたものを「算額」といいます。

算額奉納の始まりは、学問の向上祈願や問題が解けた御礼としての意味がありました。しかし、現在ほど出版や情報伝達の手段が発達していない時代においては、算額は自らの学問や研究成果を発表する場ともなり、愛好者だけではなく広く一般の人々の関心を高めました。このことから算額は、和算の普及に寄与したと考えられています。

福島県に現存する算額の数は99面と日本一の多さで、特に幕末から明治にかけての算額が多いのが特徴です。市内にも多くの算額が残され、そのうち飯野町明治の棚屋敷地蔵堂の算額は、1890（明治23）年に飯野町の和算家・朝倉林蔵の門下生11人が奉納し、5題の問題と答えが記されています。

題と答えが記されています。記されている図形には彩色が施され、幾何学的な美しさを感じさせますが、内容は難解であり、福島の和算が高い水準にあったことが分かります。

昭和に入ってから奉納された算額もあり、明治以降に西洋数学が広がってからも、和算には研究され続ける魅力があったようです。皆さんの身近にある寺社にも、先人の知的な営みに触れられる算額が残されているかもしれません。



▲棚屋敷地蔵堂（飯野町明治）の算額。算額の問題はこのように図形に関する内容が多くあります